

愛媛大学教育学部

第 104 号

# 同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番  
愛媛大学教育学部学務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



### 同窓会報 発刊に寄せて



顧問  
兵頭 寛  
(昭三二卒)

教育学部同窓会の運営に関わるようになってから三十年余り、その間、理事・副会長・会長・顧問を歴任し、いつの間にか最古参となつてしまいました。同窓会は、教育学部の変化をみすえて運営しなければならぬと考えて来ましたが、そのような観点から同窓会が当面する課題について考えてみました。

教育学部は、昭和五十年代までは量的拡大の途をたどっていましたので、教員への就職はそれ程問題ではありませんでした。とこ

ろが平成時代に入って事態は一変しました。少子高齢化社会を迎え、教員需要が減少し、多くの卒業生が教員への就職をあきらめざるを得ない状況に追い込まれました。

教育学部は、このような社会状況の変化に対応し、教員養成課程の再編とともに、教員免許の取得を要しない情報文化課程など、いわゆる「ゼロ免課程」を新設して、教員需要の減少に対処しました。

教員養成課程の再編と、いわゆる「ゼロ免課程」の新設は、同窓生の多様な職種への進出を加速させ、県内に教員として残る同窓生は少なく、大半の同窓生が県外企業に職を求めようになりました。同窓会は、このような動向に目を向けることなく、現在の支部組織で運営を続けていきますので、

教員以外の県内及び県外就職者の把握ができなくなっています。特に、いわゆる「ゼロ免課程」同窓生は、この十数年間放置されたままで、同窓会とは無縁な存在となっております。つまり、現在の支部組織だけでは同窓生を把握できなくなっている現実を認識する必要があります。

現在の同窓会支部組織は、県教育事務所との関連で、県内に東は四国中央市から西は愛南町にいたる二十一支部、それに附属支部を加えた二十二支部を設置しています。県外は、関東・京都・大阪・神戸のわずかに四支部だけで、しかも県外支部の内実は不明です。

現在の支部組織を設置した当時は、同窓生の大半が県内で就職に就いていましたので、同窓生を網羅する運営組織として有効に機能していました。支部活動は、同窓会費の徴収と同窓会報の配布を中心に展開されていきましたので、支部会員の交流を深める契機となり、支部をまとめる役割を果たしていました。

ところが同窓会は、昭和五十七年から、それまで毎年徴収していた同窓会費を入学時に終身会費として一括徴収する方法に改められた。そのため支部単位での会費徴収が不要となり、同窓会報の配布だけとなりました。このことが支部活動の停滞をもたらすこととなりました。

また、教員需要の減少は、支部における現職教員の減少をもたらした。支部組織の弱体化を加速させています。毎年一回開催される支部長会では、支部長の一年交代が目立ち、同窓会運営にかんする支部からの要望や提案はほとんどなく、支部長会の形式化が進んでいます。

要するに、同窓会の運営を支えている現在の支部組織は、教育学部が、教員需要の減少に対応するため、課程を再編・新設し社会に送り出した同窓生の受け皿として対応できなくなっています。同窓会に求められているのは、同窓生の現状を見据えた同窓会運営であり、そのために支部組織の見直しは避けて通れない課題です。

## 目次

表紙	兵頭 一夫	(1)
絵	元愛媛大学教育学部教授 菊川 國夫	
題字	元愛媛大学教育学部教授 菊川 國夫	
ごあいさつ	顧問 兵頭 寛	(2)
「同窓会報発刊に寄せて」		
心 響	木原 珠美	(3)
「こころを繋ぐ」		
学部は今	濱口 尚子	(4)
「地域から学び、地域に貢献する活動」		
「わくわくチャレンジサタデー活動報告」		
学園だより	濱口 尚子	(6)
「初任者研修の所感」		
西条・国安小教諭 高田 春樹		
「苦勞の果てに得られたもの」		
今治・上島・弓削小教諭中道 大和		
「教師になって」		
大洲・新谷小教諭 榎田 里香		
「二年学級担任をして」		
北宇和・愛治小教諭 葛川 由美		
「交流活動からもらったもの」		
愛媛大付属小教諭 五十崎洋子		
「土居中学校の取組」		
四国中央・土居中教諭 本宮 久忠		
「なるほど!」		
上浮穴・美川中教諭 山本 泰久		
「教員生活をふりかえって」		
北宇和高校教諭 井上周一郎		
表紙絵について	兵頭 一夫	(6)
叙勲・受賞	兵頭 一夫	(7)

心響  
こころを繋ぐ



木原 珠美  
(昭五〇卒)

昭和五十年大学を卒業して以来  
大学を訪れることといたら、た  
まに教科書の見本展示であわただ  
しく用を済ませる程度でした。一  
昨年、愛媛大学教育学部附属幼稚  
園勤務となり、大学へ行く機会を  
頻繁に得るようになりました。  
私が大学生のころとは建物も学  
生の気質も随分様変わりしていま  
す。



それでもフーコーの振り子の学舎  
は当時のままで、101教室など  
胸キュンの思い出が詰まった教室  
です。入学した頃は学生運動も下  
火になっていましたが、時々は一  
般教養の授業が休講になったり、  
学内でアジ演説が行われたりと、  
少し騒然とした感もありました。  
しかし、団塊の世代の後ですから

あまり深く追求しないままに楽し  
い青春時代のまつただ中のキャン  
パス生活でした。  
♪プラタナスの枯葉 寒そな枯  
葉…♪

正門からのプラタナスの歩道で  
すれ違う彼との一瞬の出会いに心  
ときめかせ、「神様、どうか今日  
も会えますように。」



なんてかわいい恋でしょう。あれ  
から〇十年（どこかで聞いたよう  
なフレーズですが）「学校は、勉  
強するところです。」などと偉そ  
うに説教する立場になっていまし  
た。

でも、本当に勉強、勉強、勉強  
ばかりでしょうか。大学へ行くこ  
との意味を考えるともちろん学問  
の追究が第一義ですが、人間とし  
て、大人としての学びの場である  
意義も大きいと思います。人生を  
左右する出会いが潜んでいるかも  
しれません。今の学生さんに、た  
くさんのいい出会いがあることを  
祈っています。  
昨今、世の中の風潮が、数字で  
評価し成果を問うというしんどい

状況にあります。成果が上がらな  
いと予算がもらえないというふう  
に。そんな中、幼稚園の環境整備  
に努めてくださる大学には感謝し  
ています。限られた予算を有効に  
使おうと苦慮しています。

先日こんなことがありました。  
幼稚園のプールの日よけテント  
が痛んだままになっていたのです  
が、念願の改修予算が付きました。  
親業者と下請け業者が見積もりに  
やってきました。改修の内容を尋  
ねると、支柱のペンキは白、テン  
トは緑色とのこと。なんと味気な  
いではありませんか。「幼稚園児  
が楽しくなるプールになりませ  
んかねえ。」とお願ひしても業者は  
「予算がありますから。」とクー  
ルなお答え。「子どもが行きたい  
プールにしたいのですが。水を怖  
がってる子をなんとかしたいので  
す。」するとペンキやさんが「わ  
かりました。やってみましょう。」  
テントやさんも「ストライプのも  
のなら何とかしましょう。」と言  
ってくださいました。念ずれば花開  
くです。それぞれの業者が子ども  
たちのためにと頑張ってください  
ました。すてきなテントになりま  
した。

大学を卒業して〇十年も経つ  
と、「人との繋がりが、関わるこ  
とが、人を動かしていくのだ。」  
と実感します。  
「まず、足を運ぶ。五感をフルに  
活用し、コミュニケーションづく  
りに努める。パソコンやメールで  
のやりとりでなく、できる限り足  
を運ぶ。」時代の情報処理と逆行  
しますが、こんな時代だからこそ、  
人と人の繋がりを大切にす泥臭  
い関係づくりが人を動かすのでは



ないでしょうか。キーワードは「こ  
ころの繋がりが」です。  
先日見たチャン・ツイー主演の  
映画『女帝』で「一番の猛毒は人  
の心」というシーンがありました  
が、良くも悪しくも最後はここ  
とところ、官も民も、老いも若き  
も、男も女も、最後はこことこ  
ころの繋がりがだと思えます。だ  
れかどれかのこことところが繋  
がっていくことが、しあわせづく  
りの始まり始まり。



心響

放送大学十月入学生募集……………(8)	原稿募集……………(10)	教育学部同窓会ホームページ開設のお知らせ……………(12)	結婚相談……………(13)	師魂 石井 素先生……………(14)	文芸……………(16)	俳句「句集「父の声」より」武田倭文字 俳画「花とともに」 小池 郁子 「墨色に遊ぶ」 渡部 平人 「漢詩」桂林旅情(6) 豊嶋 睦 先輩を偲ぶ……………(18)	故「森岡 数策」先生(五) 上甲 修 「先輩 住田幸正先生を偲ぶ」 松田 建男 支部会員からの便り……………(19)	「絆」 藤原 麻雄 「学生時代の思い出あれこれ」 小野植 元幸 同期会……………(20)	「愛師二十二卒在京同期会」 「誇れる同期会」 武田 敏文 宮崎 弘 フレッシュ卒業生から後輩へのメッセージ……………(21)	敬 弔……………(23)	平成十九年度同窓会役員一覧表……………(24)
---------------------	---------------	-------------------------------	---------------	--------------------	-------------	--	--	--	--	--------------	-------------------------

# 学部 の 今



## 地域から学び 地域に貢献する活動

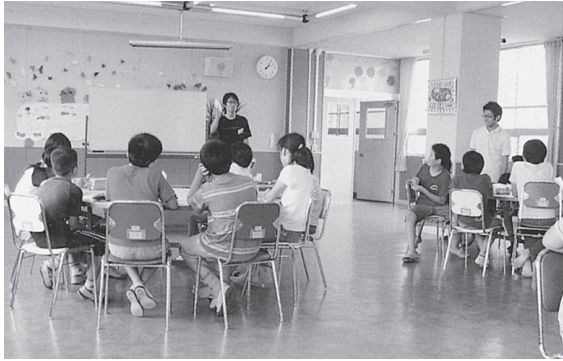
教育学部は、地域に立脚する大学という立場で、学校現場や地域社会とよりよい双方向的な関係を築き、様々な連携や交流をしています。地域での活動に、大学生も積極的に参加し、地域に貢献できる優れた人材の育成を目指しています。

### 教育学部

教育学部は、地域の教育研究・教育実践の充実・発展のために、松山市教育委員会（平成十四年五月）、今治市教育委員会（平成十五年四月）、愛媛県教育委員会（平成十五年八月）、松前町教育委員会（平成十九年三月）と相互に連携協力する旨の覚書を取り交わしました。

### フレンドシップ事業

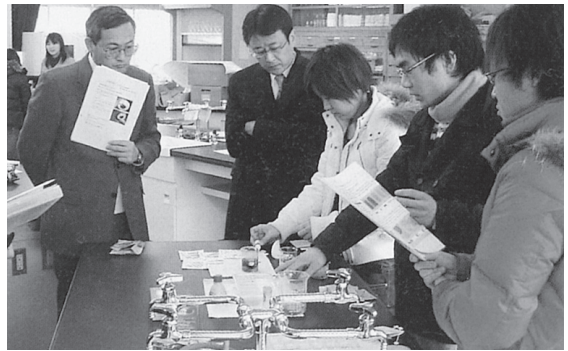
フレンドシップの基本は、子どもとの「ふれあい」。大学近隣の学校や地域の活動にボランティアとして参加したり、学生自身が子どもたちとのふれあいの場を提供しています。



土曜日に学生が企画実施している「わくわくチャレンジサタデー」

### 理科教育研修会

「理科教育研修会」は、教育現場の先生を対象にした教員研修に大学生が参加して共に学ぶ自主的な研修会です。授業以外にも様々な研修会が開催されています。



研修会の様子

理科教育研修会

<http://ed58.ed.ehime-u.ac.jp/~edsci/>

### 愛媛大学総合型 地域スポーツクラブ

平成十八年四月、愛媛大学に全国の国立大学法人では初となる総合型地域スポーツクラブが設立しました。このクラブは、教育学部の教員と学生が主体となって運営・指導しています。



キッズサッカー教室の様子

愛媛大学総合型地域スポーツクラブ

<http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~ai-spo/>

◎詳しい活動を知りたい場合は、  
教育学部ホームページをご覧ください。

<http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~edhp/>

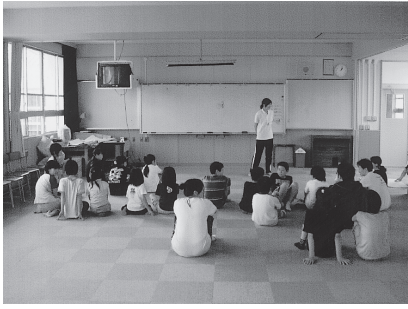
# わくわくチャレンジ サタデー 活動紹介

四回生 濱口 尚子

久米公民館わくわくチャレンジサタデー(通称「わくチャレ」)は、多くの方のご協力を得て、この春で三年目をむかえました。

隔週土曜日の午後三時間、子どもたちと一緒に遊んだり勉強したりする活動で、教育学部が私たち学生のために提供してくれている地域連携実習の一つです。その中でも学生企画型の事業であり、学生による企画・運営が特徴です。

参加してくれているのは、松山市立久米小学校の五・六年生約三十名。いたずらっ子や甘えん坊がたくさんいます。久米小学校や地域の方のご厚意で、小学校の教室や体育館、運動公園などを使わせていただいています。



活動は、四つの時間で構成されています。まず、はじめの時間です。「こ

んには。第〇回目のわくチャレを始めるよ。今日もわくチャレに来てくれてありがとう。」というあいさつから始めます。きまりごとを声に出して読み、司会係の学生がお話をします。朝の会のような時間です。

お話のあとはゲームです。高学年らしく、知的なゲームを好む傾向が見られます。みんなで楽しめるものをと、ゲーム系の学生が工夫を凝らします。

次に、自習の時間です。子どもたちはめいめい勉強道具を持参し、好きな教科の自習をします。学校の宿題や塾の予習をする子どもがほとんどです。学生は支援をします。なかなか集中できない子どももありますが、「わかった!」「そっか、できた!」という声を聞くと、支援にも熱が入ります。

三つ目は授業の時間です。この時間が学生にとってはメインの時間です。「わくわく」して「チャレンジ」したくなるような授業を目指しています。学校との大きな違いは、教師役の学生の人数が多いことです。ときにはほとんどマンツーマンに近い人数比で実践ができるほどです。

しかしこれには、メリットとデメリットがあります。



メリットは、学習活動を保障できることです。多くの先生がいるので、子どもの進度や興味関心に合わせてじっくりと支援指導できます。子どもの気付きや疑問をひろえる近さは、この人数によって可能になるものではないかと思えます。卒業したある子は、「わくチャレでは学校とはちがった授業ができて楽しかった」「班の先生がずっと教えてくれてわかりやすかった」と言ってくれました。

その逆にデメリットは、授業実践力をつける場でありながら一人で授業を実践する力に直結しないということ。多くの先生がいるのでじっくりと支援指導できる」という状況は、サブティーチャーのフォローによって授業が成立しているという状況でもあるわけです。

このように「多対多」のわくチャレのあり方については、課題の一

つとなっています。

最後は、遊びの時間です。子どもたちはこの遊びの時間がメインの時間だと思っているようです。思い思いの遊びを自由にしたり全体遊びを企画したりと遊びの時間もいろいろありますが、子どもも学生も思いっきり遊びます。

活動後は反省会を行います。指導助言の先生をお招きし反省会でご指導いただいています。実践例や工夫を教えてください。教材研究の大切さや授業の奥深さを感じます。



大ベテランの先生方に助言していただける現役学生がどれだけいることでしょうか。そう考えると、改めてわくチャレに参加させていただいていることの感謝がいっぱいになります。

後日の学生による反省会では、

いつも子どもの様子や発言が話題の中心となります。議題が逸れるのを修正するのにも一苦労なほどです。

特に、二年間継続して参加してくれたある子の成長については、話がつきません。

彼が五年生のときは、学生の話も座って聞けず、授業の時間にも完全なマンツーマンでなければ活動ができないという状況でした。しかし、その子が六年生になり、五年生やお友達に注意を呼びかけるようになったのです。その姿を見たときには、本当に感動しました。そして子どもの可能性を感じ、講義で学習した「ピグマリオン効果」という用語が頭をよぎったものでした。

思春期に差し掛かり異性の学生を避ける子、子ども同士の人間関係など、気になることは次々に出てきます。まだまだ力の足りない私たちですが、教員としての資質向上を目指し、そして楽しみにしてくる子どもがいる限り、チャレンジしていこうと思います。

最後になりましたが、わくチャレは、久米小学校、久米公民館、そして、こうしてわくチャレをみなさんに知っていただけの機会をくださった菅田先生をはじめ、多くの方のご理解とご協力があるからこそ活動です。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

# 学園だより



## 【初任者 研修の所感】



西条・国安小教諭  
高田 春樹  
(平十八卒)

### ● 初任者研修を振り返って

四月当初、学校内で私の耳に入ってくるほとんどの情報が外国語のように聞こえ、地に足の着かない毎日を過ごした。特に、初めの一週間は、授業中と休み時間のけじめがつかない子どもたちへの叱り方が分からず、

「ああ、自分は教師をやっていないのかなあ。」と悩んだ。一学期当初の授業も、見られたものではなかった。大学生活の間に、小学校の授業実践をした経験はたったの三時間、しかし、学校では毎日三時間以上の授業をこなさなければならぬ。教科書を何度読んでも、それをどう教えていいのか分からなかった。五月の初めには、ノートに何も書いてない子どもがいて、それを見て不安に思った保護者が、一年時の担任に相談していたらしい。教

師の足が地に着いてなかった中で、子どもも落ちついて授業を受けることができていなかったのである。

しかし、今思うと、このような経験があったからこそ、私は多くのことを学べたのだと感じている。「ノートの件」では、ノートを毎時間ごとを集めてチェックすること、そして、子どもがノートに書きやすい板書をしなければいけないことを学んだ。また、この日から、国語、算数の授業案を初任者担当の先生に見ていただくことになり、これは初任者を終える三月まで続いた。このおかげで、五十回教科書を読んでも授業をどう進めていったらよいか分からなかったのが、今では十回読んだら何となく見通しが立つようになってきた。この授業案は、今後の教師生活の財産となるだろう。叱り方も、国安小学校の先生方の叱り方を参考にしながら、自分に合った叱り方が分かってきた。

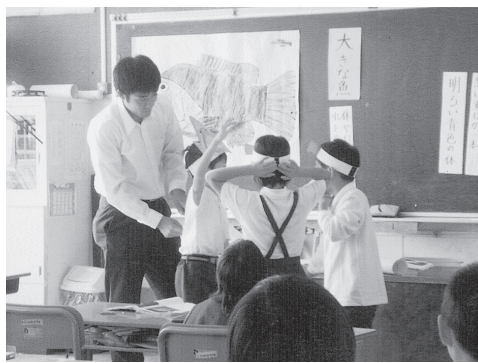
学校を離れての研修も、多くのことを学ぶことができた。教室を離れることに、初めは不安もあったが、研修で学んだことは教室で待っている子どもたちのためになるということに気付き、意欲的

に研修に取り組むことができた。例えば、「ほめて、叱って、ほめるというサンドイッチ教育」や「全体には厳しく、個には優しく」という考えは、とても参考になった。また、幼稚園や特別養護老人ホームの研修では、「相手の立場に立つこと」と、「笑顔の大切さ」を学んだ。

初任者研修では、多くの先生方から様々なことを学ぶことができ、自分自身を高めることができた。お世話になった全ての先生方に感謝し、立派な先生になることで恩返しをしたい。

### ● 私のめざす教師像

私は、器用な人間ではない。教職に就くにあたり、謙虚で一生懸命に勤めようと目標を立てた。昼休みに、子どもと精一杯遊んだ。掃除を自ら率先して行った。毎晩、次の日の授業の見通しを立てようとならばつた。先輩の先生方に向



ただいたアドバイスを次に生かそうと努力した。保護者の要望にも耳を傾け、よりよい学級作り、授業作りの参考にした。子どもと一対一で話し、互いが涙を流しながら、自分の思いをぶつけあった。毎日が新鮮で分らないことも多々あったが、分らないなりに全てのことには必死で取り組んできた。

しかし、学校生活にも慣れ、教師という職が分かってきた二学期の終わりに、初任者担当の先生に次のような指導をいただいた。「教師ができていないことを、子どもにやらそうとしてはいけません。子どもはそういうところを敏感に見ている。教師がまず行動で示せるようになりなさい。それと、宿題の量、子どもの立場に立つて出さなさいといけない。プリントは授業中にできるように工夫しましょう。」

この先生は、「子どもの立場に立つ」という教師にとって当たり前のことと、「謙虚さと一生懸命さ」を忘れかけていることを、私に伝えてくれたのである。「初心忘るべからず」という世阿弥の言葉がある。先生にいただいた指導を心の中に残し続け、謙虚で一生懸命に、という「初心」を忘れない教師でありたい。

☎ 799-1351 西条市三津屋  
七八一六

## 表紙絵について

### 「遙か」



作者  
兵頭 一夫  
(昭三八卒)

「この鳥はいま何を見ているのだろう。」何んだか寂しそうだ。我々人間のエゴや打算によって棲み家を追われた鳥たちのとまどいか、あきらめからか。『そのようだ。人間は常に新しい何かを得るため何かを犠牲にしてきた。とすれば昔の何かを取り返すには、今得ている何かを犠牲にしなければならぬ』と思う。また人間らしさへの回帰欲求がたかまる現在、まさにそれを必要としていると言える。肝心なことは今と昔の比較の中から現代への反省を育むことだ。『では何かとはなんだろう』それを決めるのは我々自身だと思ふ。見失ったものを探り、それを取り返すために何を捨てるべきかを、誰れもが考えるべき時代なのではないか。「棲み家を追われた鳥たちはこれから何処へ行くのだろうか」

### 略歴

昭38 愛媛大学教育学部卒業  
平13 津島高等学校定年退職

### 現在

画家 無所属  
愛媛県美術会会員

☎ 798-0053 宇和島市賀古町  
二二二一三六

苦勞の果てに  
得られたもの

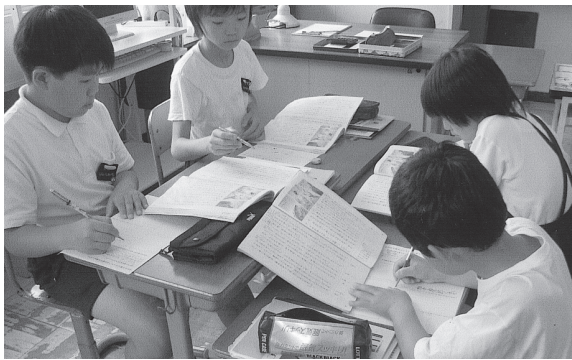


今治・上島  
弓削小教諭  
中道 大和  
(平十五年卒)

弓削に赴任して、二度目の春を迎えました。今年度は初めて六年生を担任することとなり、これまでに以上の責任を感じています。

大学を卒業したてで、目新しいことばかりだった講師の頃は、深く考えず、「子どもたちが学校が楽しいと思ってくれば」という気持ちで、勢い任せの取り組みが多かったように思います。しかし、これまでに出席してきた多くの先生方から指導していただいたり、いろいろな研修を受けたりすることで、教師としての責任の大きさを感じ、丁寧に活動に取り組むことを心がけるようになりました。そして、自分自身の中で教師への考え方が変わっていくにつれて、教師という仕事の本当の大変さを味わうようになってきました。学習面において、講師の頃から

通して三度、三年生の担任をしたのですが、目の前の子どもが変われば、同じ単元でも取り組み方を変えなければ通用しないことを痛感しました。「前に受けもったときに教材研究はしたから」という安易な気持ちから、前年度の子どもたちに好評だったプリントをそのまま使うと、目の前の子どもたちからは、「先生、どういう意味ですか」「先生、何て書いていいかわかりません」という不評の声があがりました。そのとき、当時勤務していた学校の先生方から、「目の前の子どもの実態を無視して授業を行っても成功することはない」と言われました。それから



は、日々の教材研究をさらに深めるとともに、目の前の子どもたちの実態を考慮した教具の工夫に力を入れるようになりました。そのため、これまでの何倍もの時間と労力が必要となり、自分自身の時間や楽しさを割くことが増えていきました。その度に「これくらいでやめよう」という気持ちがよがり、誘惑に負けてしまうと、次の日の授業は案の定スムーズに進むことはありませんでした。この誘惑に負けない強い気持ちをもたせてくれたのは、クラスの子どもたちでした。以前の失敗のときに分らないと言って、表情を曇らせていた子どもたちが、「先生、作文を書くの楽しくなったよ」「先生、計算問題が全部解けたよ」と明るい表情で自慢気に私に報告してくれました。今思えば当たり前前のことなのですが、そのとき初めて、子どもたちのことを考え、私自身が苦勞を重ねれば、それに比例して子どもたちの分かる喜びやできるようなった達成感が大きくなることを実感することができました。また、子どもたちの成長を間近で感じられることが教師の最大の喜びなのだろうと感じ

じることもできました。弓削小学校に赴任してからは、校長先生がよく「一年、一年を勝負の年として、子どもたちのために最善を尽くしてほしい」という言葉をおっしゃるのですが、その意味と大切さを素直に感じ取ることができるようになりました。

新年度を迎えるにあたり、私自身をもう一歩成長させるため、本校の重点目標である「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく指導する」をテーマに一年間取り組んでいこうと決意を固めました。これまで以上の苦勞が待っているとは思いますが、その果てにはこれまで以上の教師でしか味わえない喜びがあると信じ、励んでいこうと思います。また、運動面においても、今年度からは、体育主任を任せられたので、私自身が自信をもって指導できるよう練習と研究を重ね、子どもたちとともに喜びや苦しみを味わっていきたいと思います。

祝・叙勲

(平成十九年五月三日)

☆瑞宝双光章

高齡者叙勲 門田 勝哉 殿

松山市西谷甲六五五

昭十三年卒

高齡者叙勲 高橋 敏雄 殿

今治市馬越町二丁目五―五四

昭十四年卒

高齡者叙勲 篠崎 良広 殿

千葉市若葉区西郡賀五―四―一五

昭十四年卒

高齡者叙勲 藤岡 輝雄 殿

伊予市中山町中山丑三二九―一

昭十四年卒

☆瑞宝小綬章

教育功勞 友近 温壽 殿

松山市小栗六―八一―十一

昭三十四年卒

教育功勞 森 健次郎 殿

東温市上林甲一四一九

昭三十四年卒

〒794-2504 越智郡上島町弓削引野

三一九

# 教師になつて



大洲・新谷小教諭  
**榎田 里香**  
(平六卒)

幼い頃の夢だった小学校の先生になって十二年が経ちました。初任校は、宇和島の海岸沿いにある小規模校。その頃の私は夢が叶った喜びで一杯のはずなのに、失敗の連続で落ち込むこともしばしばでした。忙しい毎日の中で気持ちばかりが先走り、理想と現実のギャップに悩んでいました。

そんな時、励ましてくれたのが先輩の先生方や同期の仲間、温かい地域の方々でした。

「先生、今度沖の島まで船で遊びに行くが、行かんか。」などと声をかけていただき、さわやかな潮風を体一杯に受けているうちに、自然にやる気がおきてきたのを覚えていきます。

「先生、釣りに行つとんたんよ。はい、これ。」と言つてゼンゴアジやタコを学校に持ってきてくれる子どもたち。そのあどけない笑顔も、元気の源でした。

その初めて担任させていただいた子どもたちが、今年成人式を迎えます。月日の経つのは、何と早いものだなあと感じます。

そんな私も二人の子どもの母親になりました。今だに以前の自分と同様、目の前のことに追い立てられ忙しい毎日です。子どもが病気で入院したときなど、教師を続けるのは無理かななどと弱気になったこともありました。

でも、母親になったからこそ、これまでの自分とは違う教師としての自分がいるのを感じます。例えば、担任させていただいた子どもの背後に、その子を温かく見守る保護者の姿を感じます。また、この子どもがもし自分の子どもだったら、私はどうするだろうか、親の立場になつて考えられるようになってきました。そして、自分が少しずつ精神的に強くなつてきているのを感じます。

現在、我が子と同じ小学校に勤務させていただいています。母親であり先生である私にとって、我が子の入学式を見ることができたのは、本当にありがたいと思います。校内で会うことはあまりありませんが、運動会や学芸会、小さな集会活動でがんばっている姿を目にすることができると嬉しく思います。

また、逆に自分が働いている姿を我が子に見せることができるといふのは、仕事に張り合いをもつことができます。

一緒に台所に立ち、料理をしていた時、



「お母さんも、仕事とおうちのことがんばっているね。そんなお母さん、大好き。」

と、話してくれました。私は、その時胸がじーんと熱くなったのを覚えていきます。

教師になつて十二年の間に、いろいろな子どもと出会いました。

中には、家庭環境に恵まれず、自分ではどうすることもできない寂しさとつらさを抱えながら、登校してくる子どももいました。その子との七転八倒の毎日の中で、幼いころの家族の温もりの大切さや学校は社会の縮図であることを学びました。そして、両親をはじめ周囲の人に支えられていたからこそ、今の自分があることを改めて痛感し、感謝しました。

「お前の姿が子どもたちの母親像になるんだぞ！」という主人の言葉に対して、言葉を失ってしまふ私は、親として両親が自分にしてくれた愛情のいかばかりのことを我が子にしてあげられているのか、不安になります。

でも、家族がいるからがんばれること。周囲の人々に支えられて自分が生かされていること。そして、夢が叶った喜びに満ちた初心を忘れず、今自分にできることを精一杯することで母親として、教師として成長していきたいと思えます。

☎ 795-0072

大洲市新谷甲

三三一九八

## 放送大学 十月入学生募集!

放送大学では、平成十九年度第二学期(十月入学)の学生を募集しています。

放送大学はテレビなどの放送を利用して授業を行う通信制の大学です。

働きながらの大学卒業やキャリアアップ、退職後の生きがい作りなど、様々な目的で幅広い世代、職業の方が学んでいます。

心理学・福祉・経済・歴史・文学・自然科学など、幅広い分野を学べます。

○ 十五歳以上の方なら一科目から学習する選科履修生・科目履修生として入学できます。

○ 十八歳以上の大学入学資格をお持ちの方なら、無試験で全科履修生として入学でき、四年以上在学して百二十四単位以上を修得



# 一年学級担任をして



北宇和郡  
愛治小教諭  
葛川 由美  
(平四卒)

本校に勤務して、二年目の年となりまして。山間の緑豊かな本校は、耳をすませば鳥の美しい鳴き声が響きわたっています。

今年度も昨年度と引き続き、一年生の学級担任となりました。一年生というと、他の学年とはひと味ちがいます。小学校生活というものを全く知らない子どもたち相手です。ある先生が、「一年生は、真つ白な状態で入学してくるから、その先生の染めたい色に染まっていくよ。」と言われていたのを覚えています。染めようによっては、とんでもない色に染まってしまうので責任重大です。また一年生にとって、教師の言動、動作一つ一つが大きな影響力をもっています。まさに、「一年学級担任というのを恐れつつ」という心境です。

本校一年目の私の失敗談です。



子どもたちにむかって、「教科書を出しましょう。」と言いました。ごく当たり前の指示でしたが、一年生の子どもたちの一部は、ノートを出してぼんやりしています。聞こえなかったのかと思います、もう一度やや大きめの声で、

「教科書を出しましょう。」と、言っても知らぬふり。机の近くまで行ってもう一度言っていると、「これ教科書?」と、小さな心配そうな声で聞き返してきました。

何と教科書とノートの区別がつかなかったのです。昨年度は、

しぶりの一年生ということもあり、「一年生は何も知らない」ということをすっかり忘れていたのでした。

二度目の一年生担任のときは、昨年度の失敗をしないように、始めに教科書とノートの名前を教えしました。

「これが算数の教科書です。みなさんと一緒に言ってみましょう。さんはい。」

等々、しっかりと教えた後で質問をしてみました。

「(算数の教科書を見せながら) じゃあ、これは何。」

一年生ははりきって、「算数の、国語!」

がつくりきましたが、思ったことを素直に言い、感じる一年生。すぐに、何てかわいらしいんだろう、とその子がいらいらしく思えてきました。

今年度の一年生は、元気で活発な子が大勢います。休み時間になると、みんな外に飛び出て元気に遊んでいます。こんな一年生なので三時間目の授業をしているときに、

「おなかへったあ。給食まだ。」と、大合唱。二学期にもなると、

給食の量が足りなくなるのではと、変な心配をしています。

入学式では、責任と緊張で大きなプレッシャーを感じましたが、一年生の素直さと純真さを目の当たりにすると、そんなものは吹き飛び、一年生と共に過ごせる楽しさや、やりがいを感じながら、日々教育活動を行っています。

一年生の教育活動にかかせないのは、保護者の協力です。一年生というのは特別であり、保護者の方も子どもたちのことをしっかりと見守っていただいています。子どもたちの学校での活動に対して、自分だけでどうにかしよう、と思っていた時期がありました。

保護者の協力を得ることで随分と早くよい方向へ向かったことがいくつもありません。子どものためでしたら、保護者の方も快く協力してもらえます。保護者と手を取り合いながら、子どもたちがよりよい方向に成長していけるよう、頑張っていきたいと思っています。

☎ 798-1332  
北宇和郡鬼北町出目  
二〇五八-三

し、卒業すると、学士(教養)を取得できます。

○ ひとつの分野を体系的に学びたい方には、「放送大 学エキスパート」を実施しています。

さらに専門的に学びたい方には、大学院も併設しています。

資料を無料で差し上げます。お気軽にお問い合わせください。

### 募集期間

六月十五日〜八月十五日

資料請求・お問い合わせ先  
放送大学愛媛学習センター  
☎ 089 - 923 - 8544  
<http://www.u-air.ac.jp>

# 交流活動から もらったもの



愛大附小教諭  
五十崎洋子  
(昭六十卒)

「国際理解教育」について考えるようになって、英会話への夢がふくらんできた。とは言っても、国際理解教育＝英会話、とらえているわけではない。総合的な学習の時間で行った交流活動を通して、私自身のテーマが英会話につながったのである。

さて、自分自身のこととはさておき、国際理解教育はすばらしい人間教育だと私は思っている。なぜなら、自他の違いを認め、自他を尊重し合って生きるといった、人間としての根本的な在り方に通じるものがそこにはあるからである。そして、そういった学びは、「ひと」を好きになる交流活動をともなつてこそ、実感として根付いていくものだと私は思うのである。では、交流活動のすばらしさを今から少し語ってみることにしよう。

①生のふれ合いが、人とかかわり合う喜びをふくらませ、コミュニケーション能力を高める。  
「今日出会う人はどんな人だろう」と、大きな期待感をもって交流を迎える子どもたち。対面と

もに笑顔があふれる。「緊張をほぐし、楽しんでもらおうよ」相手のためにそう考えた子どもたちは、まずゲームタイムを展開。体を使って、音楽に合わせて…。

「こうするんだよ。」  
「うん。上手だね。」



相手も自分も笑顔。気持ちが高くて空気も和む。お互いの距離が縮まった後は、トーク&プレイタイム。「もつと話して、その人のことや外国のことを知りたい」「自分の名前も覚えてほしいなあ」子どもたちのそんな強い思いを実現するために、グループトークの時間をたっぷりとった。トークのポイントは、  
。相手の目を見ること  
。笑顔を忘れないこと  
。ジェスチャーで伝えること  
子どもたちは一生懸命トークを繰り返した。一方的に話すだけでは対話は成立しない。相手の声を聞くために、質問や確認の言葉

を積極的に交え、トークを進めていった。自分たちの学校生活を伝えたり、日本の行事を伝えたり、昔遊びを教えたりする活動の中で、外国の方の笑顔やうなずき・真剣なまなざしを間近に感じた子どもたちは、(伝える喜び) (伝える喜び) (伝える喜び) を実感した。国は違っても心は伝わるという実感が、コミュニケーションへの意欲を高めるとともに、その能力を高め、生きる力を培っていくであろうことは、大いに確信できた。



②異文化を知る喜びが、自国の文化への気付きを生みだすとともに、異文化理解への関心を高める。  
日本の昔遊びを楽しむ中で、韓国の折り紙やガーナの絵かき歌を教えてもらったり、ネパールの民族衣装やタイの踊りを見せてもらったりした。トークであるからこそ自ずとそういった相方向の

文化のふれ合いが生まれてくる。交流は、発見や驚き・感動とともに、自分の世界の広がりを実感できるものである。  
③コミュニケーションの自信が、自分の生き方を変えていく。  
コミュニケーションの喜びや異文化を知る喜びが、自信につながる。この体験が、広い視野をもって、国際社会の中で主体的に生きていく力を培っていくのである。さて、こうした交流活動のよさを鑑みたとき、二十一世紀をたくましく生きていく子どもたちにとって、「総合的な学習の時間」が意義ある学びを保障する場の一つとして大きく関与していることもまた感じとれるのではないだろうか。

つけ加えて言うならば、私自身の中で動き始めた英会話とのかかわりもまた、私の人生における「総合的な学習の時間」なのである。すなわち、夢を描き、その実現のために行動し、自分の生き方に根付かせていく―そのプロセスは、よりよい自己実現をめざして生きることには他ならず、それはそのまま「総合的な学習の時間」のプロセスと見てとれるのである。  
「総合的な学習の時間」―今一度その意義を見据え、真しに取り組んでいきたいものである。

(☎) 790-0045 松山市余戸中  
二一七二二六

## 原稿募集

―次号 第一〇五号―

短くても結構です。多くの方々のお気軽なご寄稿をお待ちしております。

★「今、教育に思うこと」を特集します。ふるってご投稿下さい。

★ 同期会や支部同窓会などの集会や活動について

★ 恩師・先輩・同僚の訪問や思い出について

★ 職場の近況や所感や活動について

★ 文芸(随想・俳句・川柳・短歌・詩等)について

★ 会員便り

1 旅行記 4 この頃思うこと  
2 季節便り 5 忘れ得ぬ人など

3 教育雑感  
※ 投稿が多数になった場合には、編集委員会で選ばせて載せますので、ご了承ください。

◇

★ 原稿〆切 十一月三十日

★ 発行 二月一日 予定

★ 字数  
依頼者以外は千二百字厳守

四〇〇字詰原稿用紙の一行を十五字にして書いて下さい。

★ 写真  
筆者の顔写真を添付してください。別に内容に関連した写真もあれば送ってください。

★ 筆者の顔写真を添付してください。別に内容に関連した写真もあれば送ってください。

## 土居中学校の取組



四国中央  
土居中教諭  
本宮 久忠  
(平二卒)

本校校長より「愛大卒業の若い男の先生に原稿依頼が来ている。日と、この原稿用紙を渡された。日頃より「まだまだ若輩者で…」と言っはいるものの、四十路を迎える私に、若い先生もなかうと辺りを見回したが、どうも私が一番の「若い男の先生」らしい。苦笑いしながら快く受け取った。そう言えば、私が採用された頃には、一校に一名は新規採用教職員がいたのだが、昨今の県内における新規採用教職員の激減。にもかかわらず、現場では毎年教職員不足に頭を抱え、県外在住の方まで講師をお願いしなければいけない現実。この矛盾を痛く感じた。それはさておき、教師生活の中から一筆ということであるが、

せつかくの機会に、今私が勤務している四国中央市立土居中学校について、短い文章ではあるが少しだけ紹介させていただきたいと思う。

本校(土居地域)は、一九五〇年(昭和二十五年)から、半世紀に余って同和教育の取組を積み上げてきた。差別の現実から深く学び、差別を受けた側からその差別を捉えることを大切にし、具体的に差別をなくしていく行動がとれる生徒を育成するために、学校、社会教育、運動団体が一体となり取り組んできた。学校としては、その同和教育を進めるにあたって、いかにして同和教育を自分の問題としていくのが最重要課題であった。我々が、個として、集団として、どういう生き方をしていくのかである。

問題を語るとき、「差別は犯罪です。私は差別を許しません。」と、いかに雄弁に語っても、子どもたちの生活の中、目の前に『いじめや不合理』が放置されていたのでは、その言葉は空虚で、実態のな



いものでしかない。また、『子どもの主体性・自由な意思の尊重』という言葉が、いつしか『自由』と『わがまま』の区別がつかない生徒をつくりあげていかなかったのだろうか。本校は、その視点に立つ

て、『いけないことはいけない。あたりまえのことはあたりまえにする。』という教育を進めている。あいさつの声、集団行動、時間厳守、休み時間の過ごし方の指導など、一見厳しく映る場面もある。

しかし、それはいわゆる『管理教育』ではない。また、生徒だけに強いるものでもない。教師同士の間でも、厳しい研修を積み上げていくし、『生徒のいるところには教師がいる』という、絶対条件の中での取組である。そして、何よりも大切にしていることは、生徒一人ひとりに対して『最後まで面倒を見る』という教師の強い信念と、教師と生徒、生徒と生徒、学校と家庭との『つながり』である。そのような中、昨年度実施された『全国人権・同和教育研究大会の関連行事(授業公開)』では、全国の教職員から「生徒同士の深い結びつきを感じた。」「いじめや差別をなくするという強い気持ち伝わってきた。」というよい評価を受けた。また、『共に進路を切

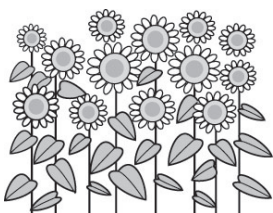
り拓く学習』として、放課後に全教職員で補充学習に努めるなどの進路保障の取組も、少しずつ成果を上げ始めている。

生徒の心、学校が『荒れ』てしまったとき、痛みをまずは『生徒たち』に向けられる。本校が目指す同和教育は、誰もが安心して過ごせる学校づくりであり、まさに『命』を大切に教育なのである。厳しく、優しさのあふれる指導の中、世の中の不合理・差別をなくする教育と運動を推進している。

799-0711

四国中央市土居町土居

三七五



なるほど！



上浮穴・美川中教諭  
山本 泰久  
(平十二卒)

「なるほど！」

私は、このつぶやきを生徒から聞く度に、心の中で「よし！」と感嘆の声をあげる。

私が数学教師を目指した理由は：正直言うと、はつきりと思いつけない。ただ、数学が得意で、最も好きな教科だったことは確かだ。

大学卒業の直前に教員採用試験の不合格通知が届き、「さて、どうしよう…」と思い悩んでいた頃、幸運にもある中学校の臨時講師の話をいただいた。

授業の経験は教育実習のみ。不安だけを抱え、新学期を迎えた。私は一年生の数学を担当することになった。自分が中学生の頃に使っていたノートを読み直してみ

たり、先輩の先生方から助言をいただいたりしながら、教材研究に明け暮れた。

私にはもう一つ仕事があった。それは、他の先生が行う数学の授業にT・Tとして参加することである。私が主となって授業を進めるわけではないので、少々気楽な気持ちでいた。しかし、よく考えてみると、一年間通して先輩の授業を参観(自分も授業者の一人なのだが…)できるといえるのは、希少なことだと思いついた。そこで毎授業、教師の発問と生徒の反応、板書などを記録しながら授業に参加した。

先輩の授業を見せていただき、発見したことがあった。それは、『わかる』ということを実感した生徒の目は本当に輝いているということである。数学が苦手な生徒が、教師の発問に促され「どうしてだろう…?’と疑問を持ち、一生懸命に課題解決に努める。苦勞の末、疑問の霧が晴れた瞬間、心の底から「なるほど！」とつぶや

くのである。そのときの生徒の目はキラキラと輝き、表情は生き生きとしていた。

私も諸先輩の授業を真似ながら、自分なりに授業をした。当然、



失敗ばかりで、落ち込むことも度々であったが、あの生徒の目を思い出すと、何とかがんばろうという気持ちになった。不思議な話であるが、努力を重ねていくうちに、私自身が数学を好きになっていくのを感じる。そして、この喜

びを生徒にも伝えたいとも思う。翌々年、新規採用教員として松山市の中学校に勤務した。そこでは教科指導だけでなく、学級経営、生徒指導、部活動指導など、教育のいろはを学んだ。幾度となく壁にぶつかりながらも、たくさんの人に支えられ、成長することができたと思う。

そして今年、五年間勤務した初任校を離れ、久万高原町立美川中学校に赴任した。新たな環境の中で、これまで自分が学んできたことを自分なりに発揮したいと考えている。今でも授業に困ったときには、あの時の授業記録を見直す。ページをめくる度に、当時の記憶がよみがえり、身が引き締まる思いになる。これからも初心を忘れず、努力を続けていきたい。そして、生徒に「なるほど！」と言わせてみたい。

☎ 791-1501

上浮穴郡久万高原町

上黒岩一八九〇

<http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~dosokai/>

[dosokai@ed.ehime-u.ac.jp](mailto:dosokai@ed.ehime-u.ac.jp)

教育学部同窓会  
インターネット  
開設しました！

メールアドレスは上記

お問い合わせ、会報への寄稿、住所、勤務先変更などの諸連絡にご利用ください。

教育学部同窓会  
ホームページ  
作成完了！

(平成十九年六月)

完成)

URLは上記

支部活動、会合、イベント等のスケジュールなど、タイムリーに情報をお知らせします。

同窓会員同士の交流を深めるために、できれば、掲示板を設ける計画です。

# 教員生活を ふりかえって



北宇和高校教諭  
井上周一郎  
(平十六院卒)

私が教員となつてから、はや四年目を迎えました。そして今年度から、これまで三年間お世話になつた新居浜西高等学校から、北宇和高等学校に異動となり、四月から宇和島の生活がスタートしました。四月の始めの頃は慣れないことも多く、不安な時期もありましたが、周りの先生方や生徒の助けもあり、現在は生き生きと学校生活を過ごしているところです。

現在私が勤務している北宇和高校は、学校から一歩外へ出てみると田園地帯が広がり、緑に囲まれた非常にのどかな場所にあります。また、農業高校としてスタートしており、校内の農場での馬の飼育、多くの整備された農業設備など、前任校では見ることができなかった光景を毎日目の当たりにしています。

さて、私が教員になつて三年

二ヶ月が過ぎましたが、この短い教員生活の中で、たくさんの方から学ばせていただきました。しかし、最も多くのことを私に与えてくれ、成長させてくれたのは、生徒にほかなりません。

昨年度、二年生のクラスの担任を受け持った時、クラス内に不登校傾向の生徒がいました。その生徒は、将来パティシエになることを志望し、専門学校への進学を希望していましたが、両親の希望は大学進学で、そのギャップに悩み、なかなか学校に登校することができないという日々が続いていました。私は何度も生徒やその両親と面談をし、親子間の気持ちの溝を埋めていくように努力しましたが、なかなかこの問題を解決することはできませんでした。ところが、ある時の三者面談で、生徒自身が両親の前で涙ながらに自分の苦しさやつらさを、自分の将来への切実な思いを訴えた時から、事態は一変しました。その三者面談以降、その生徒は一度も学校を休まなくなり、生き生きと学校生活を過ごすようになったのです。その生徒に何が変わったのか聞いたところ、今までは自分の気持ちを両親に面と向かって伝えることが

できなかったけれども、思い切つて両親に自分の気持ちを伝えることでふつきたこと、そしてそのことをきっかけに、自分の将来のために、両親がサポートしてくれるようになった、とのことでした。

この一連の出来事で私が感じたのは、人間が大きく成長するためには、ほんの少しの勇気や自信を持つことが大事なのだということです。そして、そのほんの少しの勇気や自信を持つ手助けをするのが私の役目なのではないかということ、その生徒から教えられた気がしました。

現在の勤務校においても、同様です。生徒は私にたくさんのお話を教えてくれます。現在、バスケットボール部の顧問を務めておりますが、彼らが日々技術的に、精神的に成長していくのを感じることが出来ます。人間の成長を間近で感じる事が出来ます。これが教員の醍醐味だと思います。また、「共に学び、共に高め合う」という本校の重点努力目標にあるように、ただ生徒の成長を見守るだけでなく、自分自身も共に成長していけるよう、日々研鑽に励みたいと思つています。

## 愛媛大学・(財)白楊会館 結婚相談所・MCC (Marriage Counseling Center) からのお知らせ

### 結婚相談してみませんか

#### ☆素敵な出会いを☆

皆様の幸せな結婚を願っています。どうぞお気軽にご相談ください！多数のお申し込みをスタッフ一同お待ちしております！

#### 申し込み手続きについて

- 申込書 MCCにある用紙にご記入のうえ、身上書一部を添付してください。なお、申込書については、MCCにご請求ください。
- 写真二〜三枚。
- (二年以内に撮影したカラーでサービス版程度のスナップが望ましい。)

#### 費用について

- 申込金一万円、諸経費二万円(三年間有効)、計三万円が必要です。

これについては、同封の郵便局振込用紙を使用して振り込み、領収書を同封してください。なお、三年経過後の継続は、諸

経費の二万円を同様の方法で振り込んでください。  
● お見合い費用は、双方のご負担と致します。  
● 結婚ご成立の際は、双方から二万五千元ずつ、計五万円をいただきます。

#### ご相談について

毎週水曜日

午後一時から午後五時まで

電話番号 (FAX兼用)

(089) 923-7210

愛媛大学・(財)白楊会館

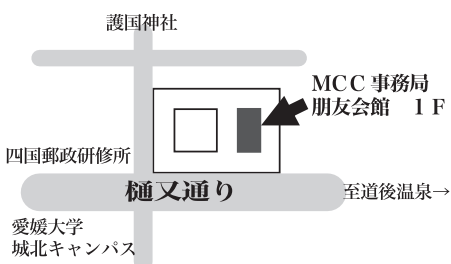
結婚相談所・MCC(Marriage Counseling Center)

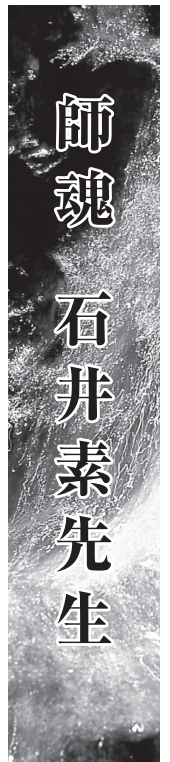
〒790-0825

愛媛県松山市道後樋又十番十三号

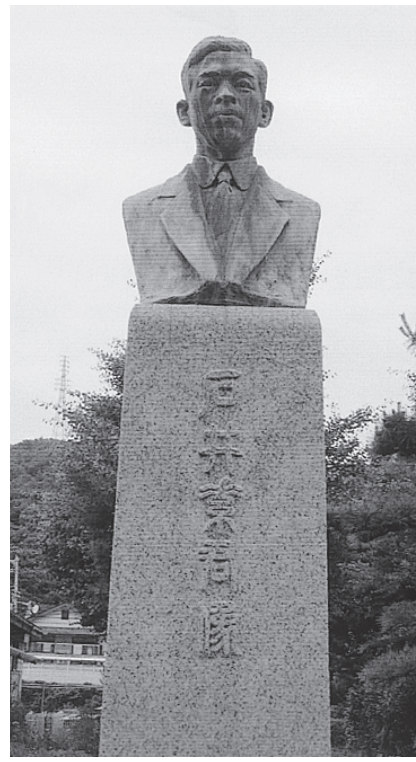
TEL (FAX兼用)

(089) 924-7910





# 師魂 石井素先生



愛媛大学教育学部の北西にある  
校庭を散策していると、南方を静  
かに見つめられている写真の胸像  
に心惹かれる。

碑文に

「胸像ハ大東亜戦争ノタメ供出  
シタルモ 母校創立九十周年ニ  
当リ 原型ニ依ツテ茲ニ復元ス  
昭和四十一年十一月十二日  
愛媛大学教育学部同窓会」  
とある。

昭和四十二年卒業生以降の方々  
は学部生活の中で日々目にとめて  
いられたことと推察される。しか  
し、どれくらい卒業生が、この  
胸像設立までの歴史を知って卒業  
されていったことだろう。

## 師魂石井素先生 事蹟回顧

河野 素  
(昭一八、師二)

師範受験の為に白亜の殿堂そび  
える校門をくぐって、右手守衛舎  
のすぐ奥、胸像の台石にもたれて、  
なにげなく時間待ちをした。

入学した直後、この胸像に心ひ  
かれた動機は、私と同名だったこ  
とにある。裏側の碑文をたどって、  
槍ヶ岳登山の途次梓川に落ちた生  
徒を救うべく雪溶けの激流に身を  
投じて三十三年の生涯を教育に殉  
じた人物であることを知った。

間もなく、本館階上の図書館の  
奥片隅に、その事蹟の展示がある  
ことに気づき、読みふけていく  
うちに、同名の因縁に加えて同郷  
旧中川村（現宇和町）の先輩であ  
ることが判った時は、全く感激の  
極であった。

こうした契機から、その事蹟あ  
れこれの総てを筆写する肚を決  
め、一週間ばかりそれに時間を費  
やした記憶がある。手許の筆写記  
録によると昭和十八年七月これを  
写すとなっている。

そうした不可思議な因縁に結  
ばれて筆写した罫紙五〇枚は、  
二十三年を経た現在も手許に残っ  
て、折にふれて取り出しては当時  
を回想している。

戦時中に銅製品として胸像は供  
出されたとかで、今は台石のみが  
愛大構内大真館横、師道鑽仰の碑  
の側に置かれているが、戦後は或  
いは忘れ去られていたのではなか  
ろうか。同窓先輩諸賢の御回想を  
願ひ、戦後の愛大に学ばれた諸友  
にいささかの紹介をしたくて筆を  
とつてみる。

石井素先生は、明治二十九年三  
月七日、東宇和郡中川村真土の上  
甲太一郎氏の次男として生まれ、  
大正五年愛媛師範卒業、松山市西  
堀端石井正義氏の養嗣子となり、  
第五尋常小学校（現在の新玉小）  
に赴任。その後、向学の念やまず、  
大正十年上京し、御徒町尋常小学  
校、ついで府立第一商業学校に転  
じて地理を担当されたようであ  
る。その後、日大法学部政治科に  
学んで、昭和二年三月最高の荣誉  
である銀時計に輝いて卒業された  
のは、殉難一年前のことである。  
上高地・梓川での殉難の状況に  
ついては、新聞諸社の当時の報道  
が詳細に載せているが、その一部

をここに摘出してみる。昭和三年  
八月二日付朝日新聞は「生徒を救  
わんとして教師もろ共溺死す」の  
見出しで、「……八月一日午前七  
時三十分上高地キャンプを槍ヶ岳  
登山のため出発。梓川の一本橋を  
渡る際、四年生福室順之輔（十七）  
が踏みはずして墜落したので、石  
井氏も救助のため飛び込んだが、  
連日の雨で増水した激流に吞まれ  
て両人とも溺死した……」とあり、  
各新聞とも、石井先生の壮烈さを  
激賞して扱ってある。

その中で、四日付国民朝刊が、  
「愛児の恩人を先ず弔った父」と  
いう見出しで、「……急報に接し  
て二日当地に着いた順之輔君の父  
平吉氏は、順之輔君の棺を示され  
たが、我が子の棺には目もくれず、  
先ず我が子の為に犠牲となった石  
井教師の棺の蓋を開け、……」と  
あることに感銘したものである。

渋谷町報（昭三・八・二〇）でも、  
「殉難教育者」の見出しのもとに、  
「学生児童の為に殉職せる教育者  
の中にて、吾人の脳裡に今尚残れ  
るは……以上両氏は何れも小学  
校教員なり。……石井教師は中等  
学校の教師なり。由来中等学校の  
教師は知識の販賣者にして、生徒  
はこれが購買者なるが如き感を持

し、その間師弟の情宜はまことに薄く、……中等教員にして現代に君の如き愛と責任との双方を遺憾なく發揮して後世に多大の教訓を残せるは……一人の壮拳は全体の生気を想わしむ。……身を捨てて教へを後に残しけり君の功の高くもあるかな（金原秀水）」とある。

昭和十七年六月のある夜。今は亡き恩師藤谷庸夫先生のお宅で、戦時中のこととて、甘藷のふかしたのをいただきながら、同級生石井素の面影について、お聞きする機会があった。

「小柄で、温厚、あまり敏活なほうではなかったが」とか、「彼は手が太かった。手の太いのは誠実さが強い。彼には背負い投げはくわされない。」などと、窺い知れた。また「福室という生徒は、実は丸木橋の上でおどけていて川に落ちたもので、石井君は人のとめるのも聞かずにすぐ飛び込んだ。三度飛びこんで捜したが、三度目にととう力尽きて……三度も飛び込んだ。そこだよ……。」と熱の入ったお話しぶりであった。

藤谷先生も語られる石井氏の誠実さは、たとえば、この槍ヶ岳登山の下調査として、六月に単身このコースを踏破されていることとか、また、危険を慮かれる御両親に対して、アルプスから数通の消息の便りを寄せられて、安心させようと努められたことなどから判る。その朝も、

「今日が最後の通信です。今八時十分、槍ヶ岳へ登山、天気恢復して晴間をみる。今夜槍ヶ泊り、明日下山。明後日は上高地を離れます。」

の通信を送るなど、最後まで親を思われる純情が溢れている。与えられた誌面も超えて、終りを急がねばならない。とにかく、愛媛の生んだこの教育殉難者石井素先生の顕彰が、全国的支援のもとに、朝倉文夫氏の彫塑によってなされた過去を思い、今、台石のみが愛大構内に存置されていることを思う時、同窓後輩われわれの総意によって、胸像再建が為されるならばと、独りひそかに念ずるものである。

(東宇和郡嘉喜尾小学校校長)

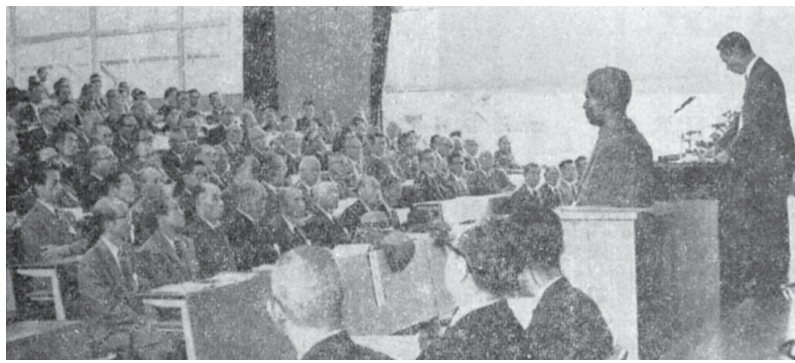
昭和四十一年一月三十一日発行

同窓会報 二十二号より

# 胸像復元経過報告

同窓会副会長  
西田 信 衛  
(大一〇・師二部)

石井素氏のご事績につきまして、すでに充分ご承知のことではありますが、このたび胸像復元の経



【胸像復元経過報告】

緯について簡単に報告を申し上げます。

石井素氏の胸像が、元愛媛県師範学校の校庭に、愛媛同窓会によって建立されましたのは、昭和四年でありまして、その碑文に次の如く誌されています。

碑文

君ハ大正五年本校ヲ卒業シ松山市第五尋常小学校ニ教鞭ヲ執ルコト五ヶ年ノ後東京府立第一商業学校ニ奉職ス昭和三年八月一日同校山岳部ヲ率キテ槍ヶ嶽ニ登攀ノ途次一生徒ノ誤ツテ梓川ニ墜落スルヤ之レヲ救ハントシテ敢然身ヲ激流ニ投シ遂ニ不測ノ厄ニ会フ享年三十三 君カ至仁ノ勇ニ感激スル者相謀ツテ彫刻家朝倉文夫氏ニ囑シ像ヲ校庭ニ建テテ君ノ懿徳ヲ永ク後昆ニ伝フ

昭和四年吉流

愛媛県師範学校

愛媛同窓会

氏が殉難された当時、報道機関は一斉にその壮烈な殉職を激賞し、社会に多大の感銘を与えたのであります。

しかるに大東亜戦争に際して胸像は供出せられ、その台石のみが山路元師範学校長の頌徳碑とともに本学部に移されたのであります。が、いつかはわれら同窓生の手によって復元し、永くその懿徳を伝えたいとの声をきくこと久しかつたのであります。

本年恰も母校創立九十周年にあたりますので、この機会にこれが復元の議を支部長会にはかりましたところ、満場一致の賛意を表され、本年度の式典関係予算に計上されたのであります。

幸いにして朝倉文夫先生の原型が保存されているとのことをききましたので、以前から朝倉氏と交渉のあられた、本学部の教官であり、石井家の後継者であられる石井進氏に交渉斡旋の勞をとっていただき、経費一〇〇万円の処、七〇万円で特別なご協力を得、本日佳き日に復元除幕に至った次第であります。

ここに私ども年来の宿願がかない、文字通りの復元を見ましたことは、まことにご同慶の至りであります。希くはこれが本学部の伝統の上に、光と力を添えることを折って経過の報告といたします。

昭和四十二年一月三十一日発行

同窓会報二十四号特集号より

# 文 芸



## 句集『父の声』より



武田倭文字

(昭十八卒)

一心といふこと雪の降りはじめ  
蝦蟇かきや生涯父の涙見ず

吾も一樹花の散るまま吹雪くまま  
しはぶきてより徐おもむろに父の声

ドアの把手ぐらぐらバレンタインの日  
母の胸拭けば高西風また鳴りぬ  
天上は音なかりけむ桐の花

鬼灯市もうすぐですよお母さん  
仏にも夫にも萩と萩の餅

弟よ白き帆挙げよあなたの夏  
団扇ゆるく使ひ仏に近くある  
水ばさと眼にかけし原爆忌

生き抜きて果つる白花さるすべり  
春蟬のこゑのあはひを老ゆるかな  
咲ききつて軽くなりたる桜かな

みづすまし淋しきときは流されて  
薄氷うすひらを生死の風の走りけり

胸中の嗚咽うげん涸れゆく螢の夜  
一木の影じや詐らぬ涼しさよ

限りある命蓮根に穴八つ

たましひの道草ばかり日向ぼこ

☆

「二句を書くことは、一片のわが身の鱗の剝脱である」—この厳しく強靱な鷹女のことばを、初学の頃の私は闇の奥に瞬く一灯とも受けとめ、心の火種としてきた。

これら句の数々は、自らの老いを深める過程での自らに執する内実の偽らぬ表出である。

発想の転換も、俳句形式への自覚的な取り組みも甘く、程遠いが作句は続けたい。

(☎790-0862 松山市湯渡町六一三三)

## 花とともに



小池 郁子

(昭四三卒)

最近草花に特に愛着を感じているので、先生に手解きを受けながら花を描くのは至福の時である。

藤は、ふさふさと豊かに垂れる花房が美しい。紫色の花は上品で優しさに富んでおり、風になびく姿にも風情がある。花房は、紫色の点描を水の含ませ方で変化させ、花の美しさを表現した。葉は、ふんわりした花と対照的に力強く形を描いた。今後ともいろいろな花に挑戦したいと思っている。

(☎791-8005 松山市東長戸一丁目六一六)



## 墨色に遊ぶ

渡部 平人

(昭三五卒)

墨の濃淡で画を描くことを始めてから、まだ日も浅く、人様に見ていただくことなど思いも寄らないが、ここまでくれば「辱多し」も避けられぬことかと思直した。

生まれ故郷の山や川の佇まいが懐かしく、墨の色を工夫し、伸びやかな線で一気に描こうとするが、作為がはたらき、無心になれない。

「意到つて筆到らず」の境地もあるという。現実の世界に囚われず、省略の効いた世界を創り出すには、自然の豊かさや奥深さに気づく修練が欠かせぬらしい。

時たま、素直に描けたと指導の先生に認められると嬉しくなり、次の作品に取りかかる。

(☎791-0243 松山市平井町一三三二一〇二)



漢詩



桂林旅情 6



豊嶋 睦 (昭二十二卒)

26 童女歌 桴上 (齊)

漓江下りの遊覧船にのり込んでからほどなく、竹イカダにのった赤い服の童女が、哀愁を帯びた歌を唱いつつ近づいてきた。天使のようなその童女は、美しい手毬を二つ三つと船に投げ入れて、再び歌を口ずさみつつ去っていった。慕うが如く、怨むが如く、また懐しむがように。

垂柳青青 古堤に遊べば  
漓江の春水 韻 清凄たり  
哀に堪えたり 童女桴上に歌うは  
堪哀童女歌 桴上  
如慕如怨亦似悽

慕が如く怨が如く亦悽むに似たり

○清凄—とても清らかなこと。  
○桴上—いかだの上。桴は竹や木をあんて舟に代用するいかだ。

27 漓江童女曲 (寒)

それにしても不可解なのは美しい手毬を投げ入れてくれた童女のことだ。出発前、「寄りそってくる竹イカダの押しつけ商品にはご注意ください」とのことだったが、その手合いとは全く違う。さてこの童女、神の遣いの天使だったのだからか？空行く雲をも立ち止まらせる程の美声の持ち主でもあった。

舟行三里 趁春闌  
兩岸青螺漂碧瀾  
遙聽過雲童女曲  
哀音劉曉透心肝

舟行三里 春闌を趁えば  
兩岸の青螺 碧瀾に漂う  
遙に聴く過雲 童女の曲  
哀音劉曉として 心肝に透る

○春闌—春たけなわ。  
○青螺—青い山のこと。  
○碧瀾—青いさざ波のこと。  
○過雲—(美しい歌声に) 行く雲も立ち止まらせる (程の曲)。  
○劉曉—澄んださわやかな声。

28 碧蓮峰里 (元)



童女桴上に歌う

「桂林の風景は天下第一、陽朔の風景は桂林」といわれる陽朔は、奇峰奇岩の風光明媚の地。うち最も著名なのが碧蓮峰。その山頂から見下ろす漓江の流れは絶景。正に桃源郷の別天地でも見るような風光である。

韶景一眸春意喧  
嶺南山水似桃源  
碧蓮峰里別天地  
明媚風光驚客魂

韶景一眸 春意喧かに  
嶺南の山水 桃源に似たり  
碧蓮峰里 別天地  
明媚の風光 客魂を驚かす  
○韶景—春の美しい景色。  
○桃源—俗世間を離れた別天地。  
○明媚—はつきりとして美しく人

の心を動かすこと。

29 高田郊外 (肴)

陽朔は小さな街。だが、その郊外の高田郷は、漓江下りでは見られない奇峰に囲まれた田園風景があり、大自然の造り成す芸術作品をたつぷり楽しむことができ。異郷の高田、それは錦の紋様と翠の山影に囲まれた塵外の郷といえるであろう。

嶺南陽朔春風暖  
一水千峰天地包  
異境高田塵外処  
錦紋翠影遍芳郊

嶺南の陽朔 春風暖かく  
一水千峰 天地包む  
異境の高田 塵外の処  
錦紋翠影 芳郊に遍し



奇峰に囲まれた高田郷

○陽朔—桂林市管轄下にある町。  
○高田—陽朔近郊の高田郷。  
○錦紋—美しい錦の紋様。  
○翠影—みどりの(山)影。

30 羈窓懷旧邦 (江)

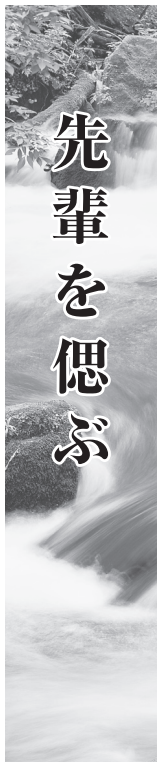
私たちの宿「桂林帝苑酒店」から眺める河岸の柳、水面に映ゆる織月の煌きには郷愁の念を覚えた。ところで、劉克莊は「旅人よ、一体、今後何回この地に遊ぶことがあろうか」と詠んでいるが、さて私たちも、この美しい桂林に、再び訪れる日はあるであろうか。

垂柳千絲 揺緑線  
岸頭灯影映漓江  
遙望織月水辺宿  
独倚羈窓懷旧邦

垂柳千絲 緑線揺らぎ  
岸頭の灯影 漓江に映ず  
遙に望む織月 水辺の宿  
独り羈窓に倚りて 旧邦を懐う

○緑線—柳の小枝のこと。  
○織月—細い月、三ヶ月をいう。  
○羈窓—旅先の宿屋の窓。  
○旧邦—古い国、ここでは故郷。

738-0025 広島県廿日市平良 一(二一九)



# 先輩を偲ぶ

独学で教師を目指した  
森岡数栄先生百九年の足跡 (一六)



上甲 修  
(昭二九卒)

## 青年補習夜学校

明治の終り頃、若連中という言葉  
葉に変わって青年という言葉が使  
われるようになった。そして村に  
佐礼谷村青年団という大きな組織  
ができ森岡青年もその一員となっ  
た。

青年団の目的の一つに学力の向  
上、即ち「数学と国語力」の基礎  
力を高める、というのがあり、村  
に青年補習夜学校が開設された。  
夜学校は希望者のみ、ということ  
でしたが申し込んだのは全部で  
二〇人。夜学校には次のような取  
り決めがあった。

- 開校日 月曜と木曜 夜七〜九時
  - 学級 尋常科卒業生十名
  - 学科 高等科卒業生十名の複式  
高等科 算術、読み方
  - 教科書 学校で習った本で復習
  - 当番 尋卒一名、高卒一名
  - 当番の内容 当日、早く来てラ  
ンプのホヤの掃除と点火、清掃
- 森岡青年は尋常科卒(小学六年  
卒)の組でしたから、高等科を卒

業した友達に早く追いつきたい、  
という気持ちが強くなり、大きな期待  
を持って夜学校に通った。だか森  
岡青年には古い教科書の算数の  
問題にしても、読み方にしても一  
度は習っているのに新鮮味はあり  
ませんでした。しかも明るさが十  
ワットくらいの石油ランプ二つで  
は、教科書の文字がようやく読め  
る程度の明るさだったので。

その上、春や秋はよいのですが、  
夏には沢山の蚊が教室に入り込ん  
で来るので、うちわで蚊を追いな  
がらの勉強でした。

冬はまた大変でした。その頃は  
今と違って、雪が多く家の中の温  
度が0度以下になる寒さでも教室  
にストーブは無く、戸のすき間か  
ら吹き込んでくる風は冷たく、手  
も足も凍りつくような部屋での勉  
強は能率が上がらなかったのです。

しかし、森岡青年は高等科を出  
た友達に早く追いつかねば、と思  
い小学校五年六年の算数の問題や  
国語の教科書に出ている漢字など  
を半年足らずでマスターして後、  
高等科の数学と国語それに日本史  
の教科書を買ってきて、勉強を始  
めたのです。

新しい教科書を手にしたとき、  
とても新鮮で勉強に対する興味が  
湧いてきた、と言います。高等科

の数学に出てくるピタゴラスの定  
理(三平方の定理)の勉強は、と  
ても面白く思い出に残る一つだっ  
たようです。

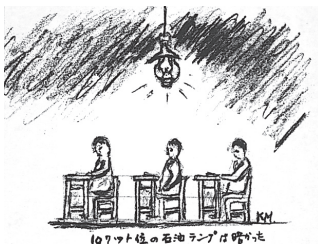
## 進学の芽生え

十八歳頃になって森岡青年は鉱  
山で毎日働くだけでは将来性がな  
く、また経済的に一家を支える事  
は難しいのではないかと、真剣に  
考えるようになった。

ある日、ふと新聞を見ると早稲  
田大学に夜間の工手学校があり、  
その中に採鉱冶金科というコース  
があることが分かった。早速入学  
の手続きをして、両親に「東京で  
昼は仕事をして夜は学校に通い、  
鉱山の指導者になる資格を取りた  
いから行かせてほしい。」と言っ  
たのです。

しかし、両親は「今お前に出て  
行かれたら、この家はどうかなる。  
お前が働いてくれるからこそ弟や  
妹も学校に行けるのだ。」と言わ  
れ、やむなく進学を断念したので  
す。

(昭二九) 松山市恵原町甲六五三二二  
791-1134



# 先輩・住田幸正先生の 御逝去を悼む



松田 建雄  
(昭二八卒)

住田幸正先生は、今年九十五歳  
の正月を迎えられました。

しかし、老衰のため去る一月  
三十一日逝去され、葬儀が翌二月  
一日、伊予市の月心会館で催され  
ました。

その時の弔辞の要旨です。

謹みて、故住田先生の御霊魂に  
申し上げます。  
先生、本日茲に先生と幽明境を

異にして相まみえる事は、私たち  
にとりまして誠に痛恨の極みであ  
ります。

想うに、先生は大正二年十月  
二十日、義理と人情に厚いこの松  
前町に生まれ、八歳にしてお父さ  
んに連れられ満州へ渡り、十五歳  
で单身帰国され、昭和九年には、  
愛媛師範学校を卒業されました。  
最初の赴任地、伊予市立南山崎

小学校で麻美夫人と結婚され、再  
び朝鮮に渡り教員生活を続けられ  
る傍ら、ご長男の正成様、ご長女  
の幸美様にも恵まれ、軍隊生活も  
体験されました。

終戦により内地に引き揚げ、再  
び、伊予地区、東宇和、内子、松  
前中学校長を最後に県教職員選賞  
を受けられ三十九年間の教職生活  
を終えられました。

退職後は、松前町の教育長や人  
権擁護委員などの要職を歴任さ  
れ、法務大臣表彰や、勲五等雙光  
旭日章などを叙勲されました。

このように九十五年間、数々の  
業績を残された先生と、今茲にお  
別れをしなければならぬこと  
は、誠に残念で惜別の情、禁じえ  
ません。

先生、本当に長い間のご指導、  
ご厚情ありがとうございました。  
茲に謹んで心より深甚なる謝意を  
表します。

もう、再び先生の温顔を拝し、  
温かいお言葉を頂くことは叶いま

せんが、私たちは先生の御遺志を受け継ぎ、一生けん命生き抜く覚悟でございます。

どうか、末永くご加護賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、先生の安らかな彼岸への旅立ちでありますよう心からご冥福をお祈りしてお別れの言葉といたします。

平成十九年二月一日

捧、慈教院正覚幸道居士之霊

松田建雄 合掌



前列右から一人目 筆者・松田建雄  
二人目 故住田幸正先生

——追悼歌——  
同胞の願届きえず黄泉へ住田先生  
今は声なし

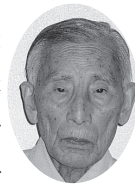
在りし日の先生想ひて今は亡き幸  
道居士の遺徳を偲ぶ

教職に生涯をかけ燃へ尽くす幸道  
居士の霊を慰む

(☎) 799-3113 伊予市米湊八八二



# 支部会員からの便り



藤原 麻雄  
(昭七卒)

近年体調が芳ばしくなく、体の重心がままならず柱伝い壁伝い、立居振舞いに難渋している。病院のMRI検査を受けたが、さしたる病変も無くそれは良いのであるが、私としては困った事である。昨年八月以来半年以上も週三回程度の栄養補給の点滴を受けたが思う様には良くはならなかった。医師は老化現象だからと云われるが、大方はそうなのであろう。ついこの間の夕暮れに、枕許のラジオを入れたら「潮来花嫁さんは舟でゆく……」とかなり昔のなつかしい歌曲が流れて来た。

私の故郷は愛媛県の大三島の、大山祇神社のある処で、妹の嫁入り先も同じく大三島の口總クチノボと云う処で地続きではあるが八キロメートル近くの距離があるので当時では、舟での嫁入りであった。花嫁花婿付添い合せて十名位の人を乗せて舟つき場へ着くと舟と波止場に歩み板を乗せて一人ずつ歩いて乗り込んだ。その時花嫁はどうした事か歩み板の真ん中でよろめいて、かんざしを落としてしまった。一瞬の出来事だった。誰も驚き短い時間ではあったがざわめいた。海の深さはせいぜい二メートル以下と思われた。海底に光る物が見えた。かんざしである事は一目でわかった。海水浴期は過ぎた頃ではあったが時が時だけにスワと着物を脱ぎかけたところ後から「兄さん僕が取って来る。」の声と共にドブンの音、二三度もぐりを試みた後かんざしを手に浮き上がって来た。

舟は無事婚殿の家につき目出度く儀式と祝宴を終え安堵の胸を撫でおろした。

帰途は陸路を歩くことにした。決して短い距離ではないので誰もかなり疲れている筈と思うに祝い事の後でもあり、ご馳走に満たされてもいたので、割合に皆元気で自分の村に帰り着いた時には全く夜が明けていた。

あからから五十年余、歳月が流れて一昨年七月に弟、昨年三月妹も後を追うように幽明境を異にしたのである。

「潮来花嫁さん」の一曲で、私

## 学校時代の思い出あれこれ



小野植 元幸  
(昭二九卒)

はしみじみ今は亡き弟妹が思い出されたのである。  
人生は長いようでも過ぎ去って顧みれば一場の夢に過ぎない。  
弟よ妹よ安らかに眠れと手を合わせ祈る。

(☎) 771-1253 徳島県板野郡藍住町  
矢上宇安任一七二一三

日記を書きはじめたのは、昭和二十七年学生の時である。当時の日記より思い出のあれこれをまとめてみた。敗戦の心の癒しのために人の集まる場所は必ず映画館があり、松山市内だけで十数館。グラウンド、タイガー劇場、国際劇場等があり、二本立、三本立もあり七十円から八十円で見られ、乱立ぎみだった。各館とも大勢入場していたが、テレビの出現で三十年代の東京オリンピックの頃から衰退した。

食料、衣類不足が続き、学生は高校時代の延長の感じ、男子は

詰襟、ズック、下駄が多く革靴は高価で少なかった。女子学生も高校時代と同じく、髪はオカッパ、スカートで紺色が多く、ズックが多かった。

食料不足が続く時代。学生食堂が校門をはいると、右手に平屋のバラック建て。米一升百円の頃、うどん二十円、サバ焼一切とキャベツのミジン切り十円。茶碗一杯十円。メニューは、フライ、煮物漬物、玉子焼きなどで、肉類は見かけなかった。

学習は、一年間一般教養課程。単位取得も小、中、高校の免許状をえるため全員むりして、一日七時間、八時間授業の者もあり、下校は四時半を過ぎることが多かった。

評価は、優、良、可、不可。八十点以上優、七十から八十点までは良、六十点以下は可。可の評価の教科は追試験が必要で論文や作文が点数で、今だにどんなにして評価したのか疑問に思っている。単位不足でも仮卒業させ、職場について単位取り十月卒業もあった。団塊世代が小学生の頃は、子供が多く、教員不足。代用教員でまかなっていたので、そのため日本育英会から、奨学金を貸与し、十年間教職につくと、特別免除の優遇策があり、一年ごとに現況報告をし、恩恵を受けた。

昭和二十八年十月二十二日から

五日間、第八回国民体育大会が、松山を主会場に四国四県の協同開催。戦後八年、戦争の名残があり、市内の鉄筋の建物は散見する程度。木造家屋が多く、大街道、湊町の建物は、殆んど二階建て、アーケードは、道路の両側歩道にテントをはり映画館、パチンコ、スマートボール、食堂が多く、衣類店は少なかったように思う。国体開催のため、道路、商店街が一新され美しくなった。特に、堀之内は陸軍がいた跡で、ラゲビー場、陸上競技場、体育館(貝がらの形、丹下健三氏設計)等の施設、設備が充実した。堀之内の競技場での開会式は、十月二十三日十時四十分天皇、皇后両陛下が出席され、会場は三万人ぐらいで会場周辺は人、人の波だった。ボランティアで、六日間国体事務局での各県からの記録を、一日中必死にしたことが忘れられない。事務局は、元松山市営プールの所にあつた。愛媛は、総合九位、女子は八位入賞。二〇一七年愛媛単独の国民体育大会が決定し、体育に秀れた人材を教員に採用すると決まり、開催に向かつて県市町行政、県民が一体となり成功させることを願い、現職、OBの先生方共に、元気で国体を参観したいものである。

(☎) 791-3351 喜多郡内子町五百木 一五四



# 同期会

## 愛師22卒在京同期会



武田 敏文 (昭二二卒)

平成十八年十二月十四日(木)東京の上野駅近くの鮎忠東上野店に、東京を中心として関東地方の愛媛師範昭和二十二年卒業同期生とゆかりの者が、幹事長の谷口敬さんの案内で集まりました。

例年は、日本開戦の十二月八日の愛媛師範査閲の感動的な日が覚えやすいと集まっていたのですが、今回は参加したいが当日は都合が悪いとわざわざ前もって連絡をいただいた方がいたので、一週間遅くしました。

井原茂幸さんの乾杯の音頭で始まりました。

谷口さんからは故恵比須(旧姓久保田)三千夫さんの墓参りを報告してくれました。後を継いでいる娘婿の東京都足立区教育長さんの話では、恵比須さんは生前愛媛の祖先のお墓をトラックで運んで来たそうです。また谷口さんは故郷愛媛の同期生の夫婦で旅行をしている話がありました。すると大向こうから「せめて東京の新宿辺りで夫婦会食をやらなにか。」との声がかかりました。水野允陽さんは新幹線の中で脳卒中のため倒れたが、「歩かないと歩けなくなる。」との医者のことばに向かつてりハビリに努力し、韓国にまで合唱団を引き連れて出かけた。配ってくれたパンフレットによると「二〇〇六年十一月二十四日(金)午後七時三十分より光州文化芸術会館大劇場の韓・日友好交流演奏会」で韓国の交響楽団と共に指揮をしたとのことです。

高橋立身さんは、家族の心臓のペースメーカーのことをくわしく話してくれました。近頃は機械も進歩して取り替え期間が長くなつたそうです。

井原さんは、今でも市文化財委員の仕事の合間を縫って東京湾向かいの千葉県南端の館山にある陶房に通い展覧会出品作品の製作に励んでいます。

藤本正義さんは、愛媛師範在学中、林伝次校長先生が転任された時手伝いに行つた思い出を話してくれました。

ほくからは、食事のとき無意識に右手が震える本態性振戦という病気になることを話しました。

加藤幹さんの奥さんと玉田泰太郎さんの奥さんも参加してくれました。

加藤幹さんの奥さんの貞枝さんは今でもテニスの大会に出ているそうです。

玉田泰太郎さんの奥さんの龍子さんは夫の遺志を継いで愛媛県の菊間へ家や周りの手入れに月の半分出かけているそうです。愛媛に御無沙汰勝ちの一同、感心しました。

常連の近藤功さんが欠席して寂しかったが、返信に「認知症のため」と書かれた文字を見て、難しい漢字が書けているのでまだ軽いなど安心しました。

(☎) 331-0063 さいたま市西区プラザ 八一四



誇れる同期会



宮崎 弘 (昭三二卒)

昭和二十八年度愛媛大学教育学部入学・昭和三十年・昭和三十三年卒業生の集いは、第五回同期会を、平成十九年四月七日リーガロイヤルホテル新居浜で開催、はるばる遠隔の地から五十七名のご参加を頂き、旧交を温め思い出深い、ひと時を過ごすことができました。当初は六十五名の参加申し込みがありました、健康上のこと、家庭の事情などで止むを得ず不参加となった方は、さぞかし、残念であったと思います。

同期会を省みずと、平成十一年は松山市の文京会館、平成十三年は今治市の千年松、平成十五年は宇和島市の国際ホテル、平成十七年は松山市のにぎたつ会館で開催されました。平成二十一年の開催地は八幡浜管内の呼び声が高く、榊田忠章氏から努力したい旨の力強い挨拶がありました。平成二十年の愛大教育学部同窓会には参加しよう、その時にまた話し合うことになりました。平成の奇数年は同期会、偶数年は同窓会(松山市)を合言葉に、お互いに傘寿のお祝いまでは頑張ろうと語り合いました。学生時代に「教育原理」で学んだ、「子曰、学而時習之、不亦説乎、有朋自遠方来 不亦楽乎、人不知而不慍、不亦君子乎」を思い出しながら元気で参加いたしました。誇れる同期会発足の立役者は三好 優・藤川典子・村上是善氏等の努力に負うところが大きいと感じています。今回は西条管内が担当、資料の準備等は近藤早次氏、送迎係は長曾我部壮二・村上哲惟の両氏、会場の座席等は鈴木洋一氏、受付青野弘子・伊藤娥見の両氏、会計は西原マツ子・池田三樹子の両氏、司会は黒河健二氏、開会挨拶後山内邦夫氏が古希を祝つての乾杯音頭、料理に舌づつみながら、酒を酌み交わし、懐かしい会話が続き、カラオケでは梅岡文雄・岩本正男両氏のリズムミカルな歌声が歓声を呼びました。愛媛大学唱歌では、知らない同期生が多い中、中島敬一・渡部悦郎両氏が壇上で先導的役割を果たしていただき盛り上がりしました。取りは「星影のワルツ」遠藤三男氏の歌声と共に大合唱しました。

最後は、森次康成氏の発声で同期会の益々の発展を願って「万歳三唱」で締めくくりました。ホテルのマイクロスバスに乗った同期生に、「シューユーアゲイン」と手を振り合い別れを惜しみました。

(☎792-0042 新居浜市本郷二一八一三二)



フレッシュユ卒業生からよせられた後輩へのメッセージ

県内の銀行に勤務しています。学生時代はそれほどまじめではなく、先生方にはたくさんご迷惑をおかけしたとは思いますが、それでも教育学部のあのムード、あの熱気が、勉強嫌いだつた私を押し上げてくれて、いまとなっては感謝ばかりです。高校生のみなさん、愛媛大学の教育学部でぜひ自分の可能性を見つけてください。



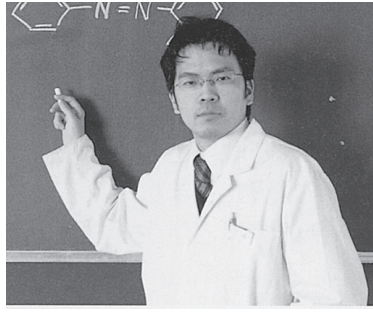
金融関係 豊田 真澄さん

私は現在、高校の数学の教員として働いています。教員という職業は、学生の頃考えていた以上に様々な仕事があり、悩むことも多いですが、よろこびや感動のある大変やりがいのある仕事です。「学び続けなさい」という教授の言葉を思い出しながら、生徒とともに私自身も成長できるよう、がんばっていこうと思っています。



高校教諭(数学) 藤岡 敦子さん

現在、私は愛媛県立今治西高等学校に勤務しています。担当科目は化学Ⅰ、化学Ⅱ、生物Ⅰ、生物Ⅱです。大学での経験を生かし、授業中は実物や自然現象に触れる機会をできるだけ多く用意することを心懸けています。部活動は女子バレー部、校務分掌は主に進路課です。まだまだ毎日が勉強という状況ですが、教えることのおもしろさや難しさを肌で感じ充実した日々を送っています。



高校教諭 (理科)  
小原 秀雄さん

はじめまして。愛媛県の小学校に勤めている長崎弘樹です。愛媛大学教育学部には、教育現場のお手伝いをしながら教師としての力量を高めることのできる「ふれあ



い実習」というカリキュラムがあります。私の場合、小学校で子どもの学びにつなげていきました。その経験は、教師としての自分の原点であり、一生忘れられない思い出です。

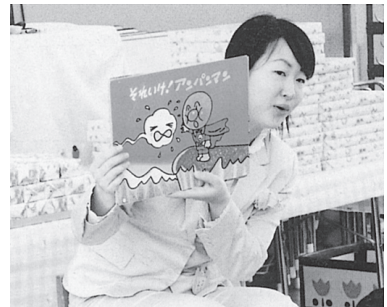


小学校教諭  
長崎 弘樹さん

私は今、きらきらとした子どもたちの笑顔に囲まれて、幼稚園での充実した生活を送っています。もちろん楽しいことばかりではなく、学生の時には実感できなかった子どもを教育することの難しさや責任の重さに直面しながら日々奮闘しています。それでも大好きな子どもたちがいるから頑張れるのだと思います。いつまでも子ど

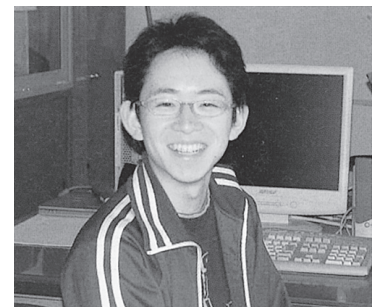


ものことを第一に考える教師であり続けたいと思います。



幼稚園教諭  
三好くみこさん

技術教育専修の良い点は、木材・金属などを使ったものづくりの技能が習得できる点と情報機器の知識・技能の習得ができる点が挙げられます。ものづくりができることで立体的な教材の製作ができ、子どもたちに喜ばれ、また、教師としての人間性の幅がひろがりま



小学校教諭  
柏原 永知さん

私は、障害児教育を学んでいく上で、一回生から四回生まで、多くの現場で経験を積むことを目標に特殊学級や養護学校の授業に参加してきました。実習を通して、子どものもつ素晴らしい力に気づいたり、生きた学級経営を学んだりしてきました。実習の中で、出



てきた疑問は、授業の中で解決、理解するようにしました。経験を通して学ぶことにより、自分なりの教育観を作り上げることができたと思います。

特別支援学校教諭  
日野 信彦さん



くだらないことで一緒に笑える友達や、つい頼りたくなる先生や、いつまでも離れたくない校舎が、大学生にもなって得られるなんて、愛に溢れた愛大だからだっただと思う。体育の勉強がしたいと思



マスクミ関係  
高瀬 雅子さん



敬 弔

(物故会員)

(死亡年月日)

(氏 名)

19 ・ 2 ・ 21	19 ・ 2 ・ 13	19 ・ 2 ・ 12	19 ・ 2 ・ 11	19 ・ 2 ・ 11	19 ・ 2 ・ 11	19 ・ 2 ・ 6	19 ・ 2 ・ 4	19 ・ 1 ・ 31	19 ・ 1 ・ 28	19 ・ 1 ・ 27	19 ・ 1 ・ 24	19 ・ 1 ・ 23	19 ・ 1 ・ 11	19 ・ 1 ・ 7	19 ・ 1 ・ 4																
(昭 12 ・ 本 科 二)	高 橋 将 夫	(昭 15 ・ 本 科 二)	統 木 壽	(昭 10 ・ 本 科 一)	井 上 圓 吉	(昭 14 ・ 本 科 二)	渡 辺 真 喜 子	(昭 19 ・ 本 科 一)	国 廣 桂	(昭 14 ・ 本 科 一)	曾 我 部 謙 長	(昭 16 ・ 本 科 一)	末 光 博	(昭 23 ・ 青 師)	別 宮 啓 二	(昭 9 ・ 本 科 一)	住 田 幸 正	(昭 17 ・ 本 科 二)	藤 原 武	(昭 40 ・ 愛 大)	鍵 谷 正 和	(昭 22 ・ 青 師)	樋 口 博 章	(大 14 ・ 本 科 一)	飛 田 豊 子	(昭 6 ・ 本 科 二)	山 本 八 千 代	(昭 9 ・ 本 科 一)	相 原 明 子	(昭 20 ・ 本 科 一)	竹 内 一 平

19 ・ 4 ・ 12	19 ・ 4 ・ 11	19 ・ 4 ・ 9	19 ・ 4 ・ 5	19 ・ 4 ・ 3	19 ・ 4 ・ 2	19 ・ 3 ・ .	19 ・ 3 ・ 24	19 ・ 3 ・ 15	19 ・ 3 ・ 15	19 ・ 3 ・ 14	19 ・ 3 ・ 13	19 ・ 3 ・ 3	19 ・ 3 ・ 2	19 ・ 3 ・ 2	19 ・ 3 ・ 1	19 ・ 2 ・ 23																	
(昭 28 ・ 愛 大)	河 村 信 男	(昭 24 ・ 青 師)	川 端 弘	(昭 30 ・ 愛 大)	真 部 史 朗	(昭 25 ・ 愛 大)	岡 田 扶 佐 子	(昭 38 ・ 愛 大)	黒 田 世 起 男	(昭 16 ・ 教 員 養 )	中 田 溢	(昭 19 ・ 愛 師 女 子)	鴨 川 信 子	(昭 33 ・ 愛 大)	加 藤 哲 男	(昭 25 ・ 青 師)	早 瀬 義 明	(昭 12 ・ 本 科 二)	新 居 田 正 久	(昭 24 ・ 本 科 一)	平 岡 芳 行	(昭 42 ・ 愛 大)	細 田 亮	(昭 25 ・ 本 科 一)	妻 鳥 和 敬	(昭 25 ・ 青 師)	玉 井 茂 久	(昭 28 ・ 愛 大)	園 部 竹 夫	(昭 26 ・ 本 科 一)	近 藤 恒 一	(昭 10 ・ 本 科 二)	長 野 清

19 ・ 5 ・ 22	19 ・ 5 ・ 19	19 ・ 5 ・ 18	19 ・ 5 ・ 15	19 ・ 5 ・ 9	19 ・ 5 ・ 9	19 ・ 5 ・ 8	19 ・ 5 ・ 7	19 ・ 5 ・ 3	19 ・ 5 ・ 1	19 ・ 4 ・ 29	19 ・ 4 ・ 27	19 ・ 4 ・ 26	19 ・ 4 ・ 23	19 ・ 4 ・ 17	19 ・ 4 ・ 13	19 ・ 4 ・ 15																	
(昭 3 ・ 本 科 二)	菅 佐 眞 光	(昭 22 ・ 本 科 一)	青 野 弘	(昭 23 ・ 本 科 一)	牧 山 海 生	(昭 26 ・ 愛 大)	寛 成 子	(昭 19 ・ 本 科 一)	沼 川 本 修	(昭 24 ・ 本 科 一)	新 山 恒 則	(昭 8 ・ 本 科 二)	原 か ず	(昭 14 ・ 本 科 二)	後 藤 二 郎	(昭 15 ・ 本 科 一)	新 居 田 正 徳	(昭 26 ・ 本 科 二)	水 口 汎	(昭 24 ・ 研 究 科)	神 谷 亀	(昭 15 ・ 本 科 一)	永 井 諄 一	(昭 18 ・ 本 科 二)	隅 田 清	(昭 19 ・ 本 科 一)	矢 野 和 男	(昭 16 ・ 本 科 二)	加 藤 泰 正	(昭 18 ・ 本 科 二)	尾 池 美 万 子	(昭 19 ・ 本 科 二)	高 市 守 久

平成 18 年度 決 算 書

平成 19 年度 予 算 書

(収入の部)

費 目	予 算	決 算	増減 (△印減)	摘 要
1. 会 費	0	0	0	
2. 終身会費	5,820,000	5,500,000	△ 320,000	入学者 275 19 名未納
3. 雑 収 入	150,000	120,331	△ 29,669	利息その他
4. 繰 越 金	623,042	623,042	0	
計	6,593,042	6,243,373	△ 349,669	

(収入の部)

費 目	本 年 度	前 年 度	増 減	摘 要
1. 会 費	0	0	0	
2. 終身会費	5,600,000	5,820,000	△ 220,000	入学者 240 名 +63 名
3. 雑 収 入	150,000	150,000	0	利息、寄付金等
4. 繰 越 金	1,481,490	623,042	858,448	
計	7,231,490	6,593,042	638,448	

(支出の部)

費 目	予 算	決 算	増減 (△印減)	摘 要
1. 会 議 費	350,000	313,706	△ 36,294	支部長会・理事会
2. 旅 費	150,000	121,780	△ 28,220	支部長会
3. 印 刷 費	2,400,000	1,702,434	△ 697,566	会報年 2 回
4. 通 信 費	500,000	319,830	△ 180,170	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	360,000	0	△ 360,000	
6. 給 与 費	800,000	750,000	△ 50,000	
7. 備 品 費	15,000	3,000	△ 12,000	
8. 消 耗 品 費	380,000	103,613	△ 276,387	封筒、ラベル、コピー代等
9. 支 部 助 成 費	500,000	455,510	△ 44,490	
10. 卒 業 記 念 費	200,000	189,000	△ 11,000	文鎮
11. 雑 費	50,000	17,025	△ 32,975	
12. 国 際 交 流 基 金	250,000	250,000	0	
13. 予 備 費	638,042	535,985	△ 102,057	
計	6,593,042	4,761,883	△ 1,831,159	
残 高		1,481,490		

(支出の部)

費 目	本 年 度	前 年 度	増 減	摘 要
1. 会 議 費	500,000	350,000	150,000	支部長会・理事会
2. 旅 費	300,000	150,000	150,000	支部長会
3. 印 刷 費	1,300,000	2,400,000	△ 1,100,000	会報年 2 回
4. 通 信 費	700,000	500,000	200,000	会報発送、連絡費
5. 慶 弔 費	200,000	360,000	△ 160,000	
6. 給 与 費	800,000	800,000	0	
7. 備 品 費	350,000	15,000	335,000	
8. 消 耗 品 費	550,000	380,000	170,000	封筒、ラベル、コピー代等
9. 支 部 助 成 費	700,000	500,000	200,000	
10. 卒 業 記 念 費	400,000	200,000	200,000	文鎮
11. 雑 費	250,000	50,000	200,000	
12. 国 際 交 流 基 金	250,000	250,000	0	
13. 予 備 費	931,490	638,042	293,448	
計	7,231,490	6,593,042	638,448	

# 平成 19 年度 役 員 表

愛媛大学教育学部同窓会

本 部	顧問	曲田清維・兵頭 寛		監事	池田新二	池田新二 西岡博幸	兼任幹事	菅田 顕
	会長	奥定一孝						
	副会長	平松義樹	峯本高義	村上朋子	升田 守	垂水葉子		
	理 事	池内謙三	増池武雄	森貞 聰	山下徳寧	満田泰三		
		水口 敬	大野慶一	郷田光生	山下雅司	高橋治郎		
		菊川國夫	友近温寿	鮎田崎子	阿部 晋	鎌田サチ子		
押岡佳子		菊池晶子	橋村 誠	正岡義憲	木原珠美			
	児玉善民	五十崎 洋子	萩野 さくら	近江理恵				

支 部 名		支 部 長		副 支 部 長		副 支 部 長	
四 国 中 央 市	川之江・新宮	三好伊佐子	妻鳥小	松本謙吉	川之江小	越村慎治	南 小
	伊予三島	後藤宏治	豊岡小	日浦正文	中之庄小	長野 緑	三島小
	土居	村上正哲	土居中	好井秀彰	土居小	横山希世	土居中
新居浜	伊藤 俊	角野中	浦江賢治	船木中	濱田英稔	泉川中	
西 条	川上善秋	西条小	小笠原澄恵	氷見小	横山完次	西条東中	
東予・周桑	井上芳春	多賀小	黒河伊勢美	国安小	蔵田満隆	小松中	
今 治	玉井 學	別宮小	野間勝久	南 中			
今治・越智	井原 涉	吉海中	山崎美和子	亀岡小			
松山・北条	替地和人	河野小	鈴木 清	北条北中	中矢 勉	難波小	
松 山	池田新二	伊台小	岡本純輝	潮見小	森 健	拓南中	
東 温	西岡博幸	拝志小	宇高希美	拝志小	和田利男	川上小	
伊 予	松尾多美子	港南中	坪内雅子	岡田小	渡辺正治	岡田中	
上 浮 穴	好井邦嘉	仕七川小	平松恭助	直瀬小	中塚香代	明神小	
大 洲	鎌田八重子	新谷小	西山富治男	大洲北中	垣見節子	長浜小	
喜 多	片山準三	大瀬小	平尾好廣	参川小	田中加代	大瀬小	
八 幡 浜	楠橋恒雄	川之石小	岩井源一	松蔭小	河野和恵	川之内小	
西 宇 和	長野照道	伊方小	道岡喜好	九町小	辰野晴美	佐田岬小	
西 予	内藤信男	城川中	浅野尚也	田之筋小	三好知子	二木生小	
宇 和 島	黒井英吉	岩松小	松澤正仁	天神小	西本紀子	玉津小	
北 宇 和	山口眞理子	愛治小	赤松伸二	松野西小	古谷玲子	近永小	
南 宇 和	井上洋子	平城小	若田 正	久良小	少林純子	柏 小	
附 属	小玉善民	附特別支援					

県 外 支 部	東 京	武田敏文	本山定男	
	京 都	河野直樹		
	大 阪	本宮 久	神垣鉄雄	杉山容子
	神 戸	木原孝造	平山 昇	加登康智

編 集 委 員	菅田 顕	峯本高義	菊川国夫	村上朋子	山下雅司
---------	------	------	------	------	------